

## Ⅱ 調査結果の概要

### 1 観光客の概況

#### (1) 総観光客数

##### ① 平成21年の総観光客数

単位：万人，%

区分	平成21年	平成20年	対前年増減	対前年比
総観光客数	5,530	5,632	▲102	▲1.8

平成21年の総観光客数は、5,530万人で、平成20年と比べて102万人(▲1.8%)減少した。

主な要因としては、新型インフルエンザの流行及び長引く世界的な景気の低迷などにより、多くの県内市町で観光客が減少したことが挙げられる。

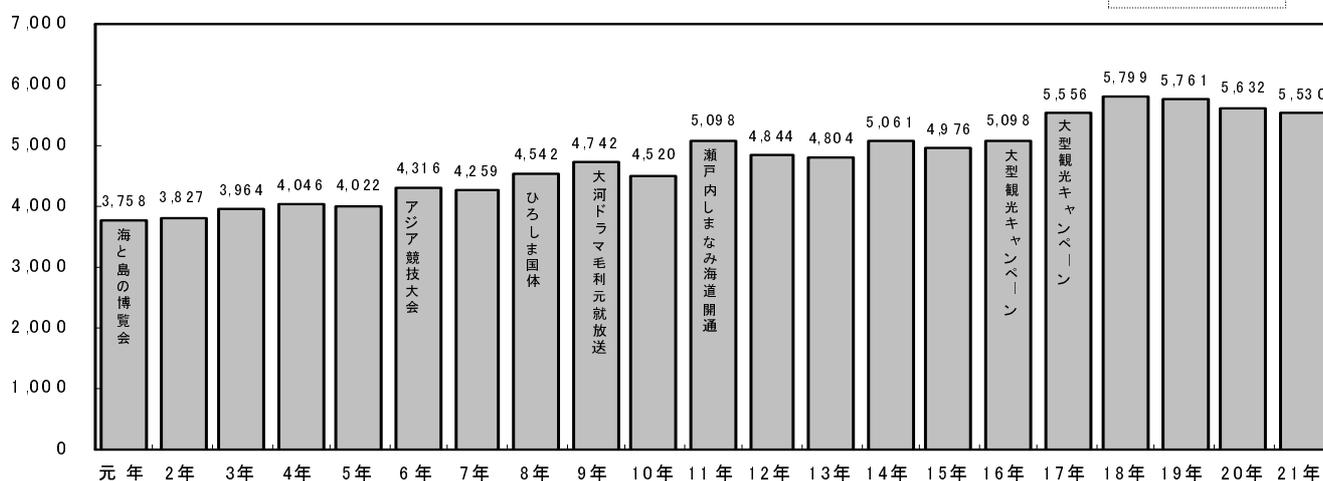
一方、休日の高速道路ETC割引の効果もあり、しまなみ海道10周年を迎えた尾道市が43万人増加したのをはじめ、道の駅の観光客等の増加により東広島市で14万人、北広島町で12万人増加している。

##### ② 総観光客数の推移

本県の総観光客数は、平成元年以降ほぼ順調に推移し、「瀬戸内しまなみ海道」が開通した平成11年には、はじめて5,000万人を上回った。また、大型観光キャンペーンの効果もあり、平成16年から平成18年と3年連続して過去最高を更新したが、平成19年からは3年連続して微減となっている。

図1 総観光客数の推移

単位：万人



単位：万人，%

区分	元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年
総観光客数	3758	3827	3964	4046	4022	4316	4259	4542	4742	4520	5098	4844	4804	5061	4976	5098	5556	5799	5761	5632	5530
対前年比	132	1.8	3.6	2.1	▲0.6	7.3	▲1.3	6.7	4.4	▲4.7	12.8	▲5.0	▲0.8	5.4	▲1.7	2.5	9.0	4.4	▲0.7	▲2.2	▲1.8
元年基準の指数	100	101.8	105.5	107.7	107	114.8	113.3	120.9	126.2	120.3	135.6	128.9	127.8	134.7	132.4	135.7	147.8	154.3	153.3	149.9	147.2

(2) 市町・地区別観光客の状況

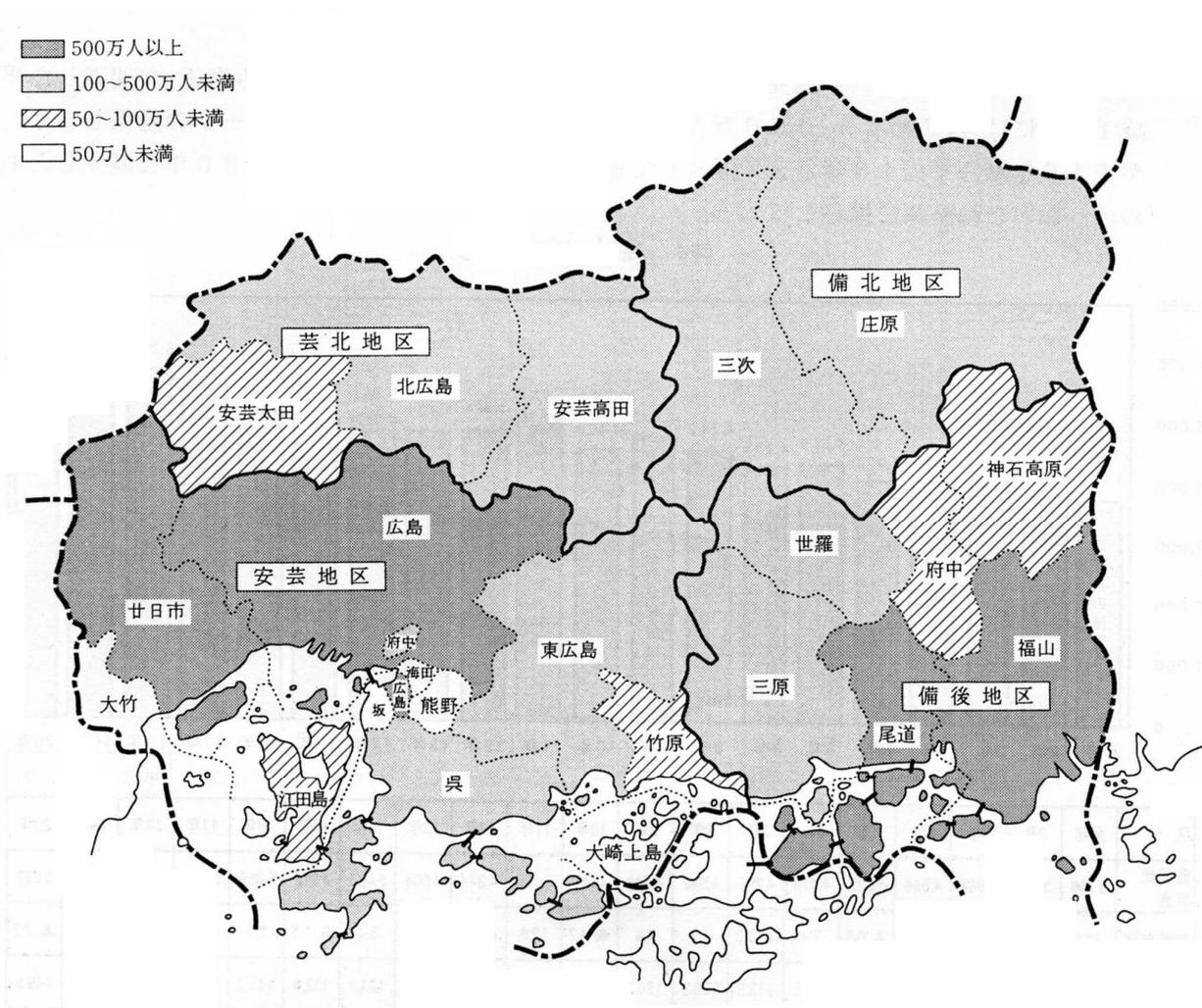
① 市町別総観光客数の状況

区 分	市町数	前年と比べて	
		増加した市町	減少した市町
500 万人以上	4 市	尾道市, 福山市	広島市, 廿日市市
100~500 万人未満	9 市町	東広島市, 北広島町	安芸高田市, 庄原市, 三原市, 府中町, 三次市, 呉市, 世羅町
50~100 万人未満	5 市町		神石高原町, 竹原市, 江田島市, 安芸太田町, 府中市
50 万人未満	5 市町	海田町, 熊野町	坂町, 大崎上島町, 大竹市

総観光客数を市町別に見ると、広島市、福山市、廿日市市、尾道市、呉市などの瀬戸内海沿岸地域を中心に、総観光客数が多いことがわかる。

なお、前年に比べて総観光客数が増加した市町は6、減少した市町は17である。

図2 総観光客数の市町別状況



② 市町別総観光客数の順位（上位10位）

単位：千人，%

順位	市町名	平成21年	平成20年	対前年増減	対前年比	前年順位
1位	広島市	11,075	11,501	▲ 426	▲ 3.7	1位
2位	福山市	6,347	6,228	119	1.9	2位
3位	尾道市	5,849	5,421	428	7.9	4位
4位	廿日市市	5,839	5,922	▲ 83	▲ 1.4	3位
5位	呉市	4,300	4,338	▲ 38	▲ 0.9	5位
6位	三次市	2,840	2,902	▲ 62	▲ 2.1	6位
7位	東広島市	2,662	2,526	136	5.4	8位
8位	北広島町	2,560	2,442	118	4.8	9位
9位	庄原市	2,357	2,538	▲ 181	▲ 7.1	7位
10位	三原市	2,139	2,211	▲ 72	▲ 3.3	10位

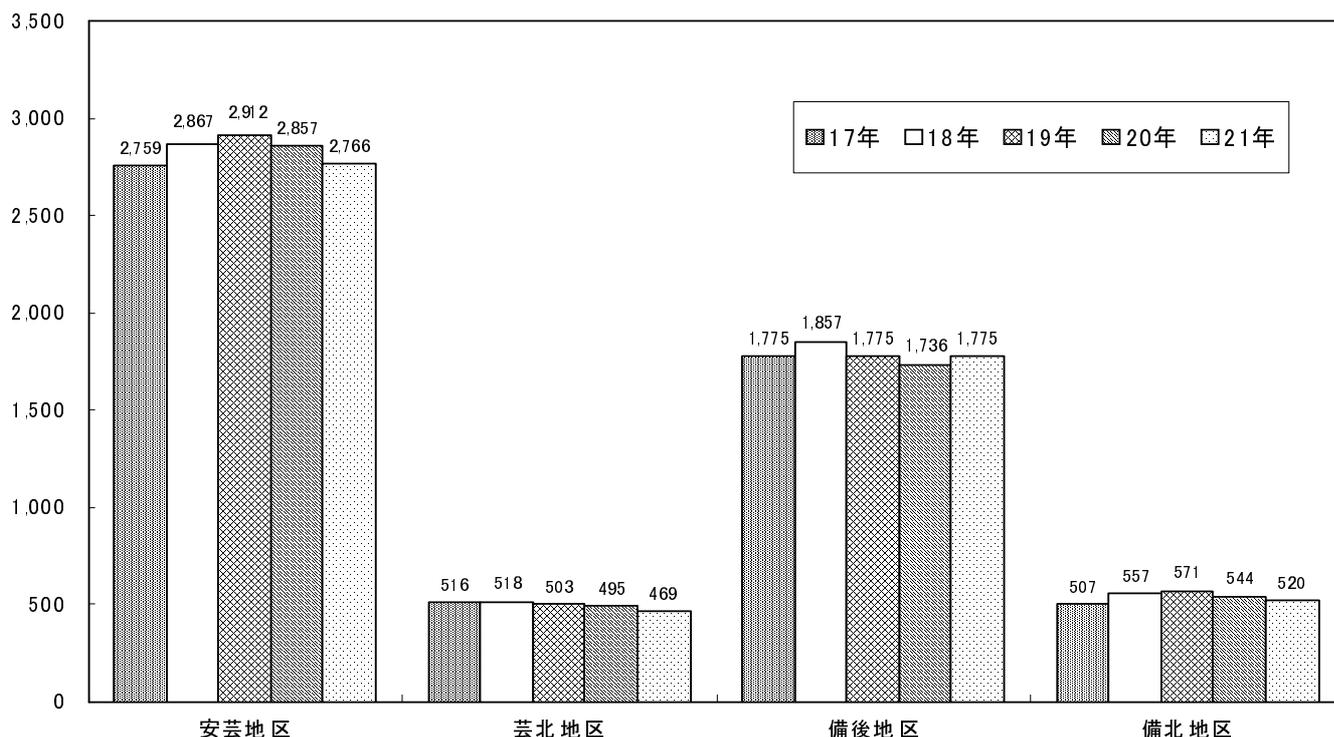
上位10市町の中では、福山市、尾道市、東広島市及び北広島町が対前年比増となったが、広島市、庄原市及び三原市では3%を超える減少となっている。

③ 地区別総観光客数の状況

地区別では、前年と比較して備後地区が39万人（2.2%）増加したが、安芸地区は91万人（▲3.2%）、芸北地区は26万人（▲5.1%）、備北地区は24万人（▲4.5%）の減となっている。

図3 地区別総観光客数の状況

単位：万人



### (3) 発地別観光客の状況

#### ① 県内・県外観光客の状況

単位：万人，%

区分	平成21年	平成21年構成比	平成20年	対前年増減	対前年比
県内	3,173	57.4	3,301	▲128	▲3.9
県外	2,357	42.6	2,331	26	1.1

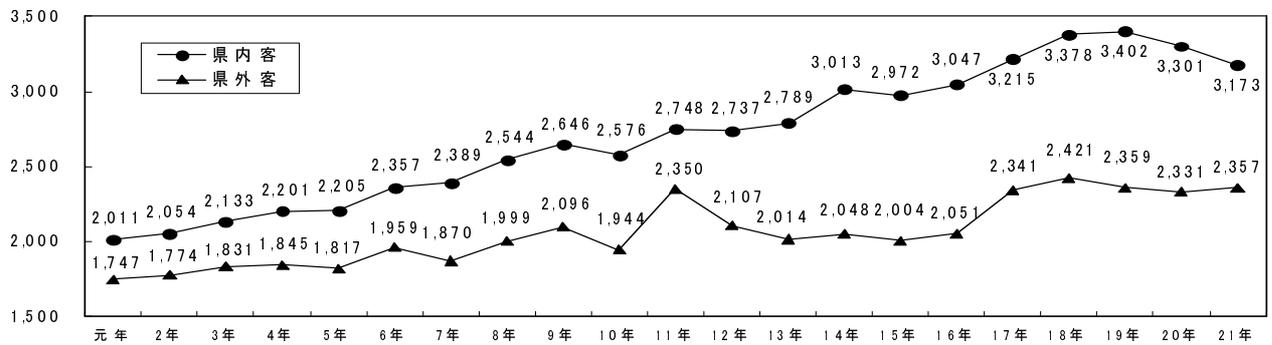
総観光客数に占める県内観光客の割合は57.4%，県外観光客は42.6%であった。

#### ② 県内・県外観光客数の推移

県外観光客数は前年比26万人増の2,357万人となり，3年ぶりに増加した。また，県内観光客（地元観光客を含む）数は，平成16年以降3,000万人台を維持している。

図4 県内・県外観光客数の推移

単位：万人

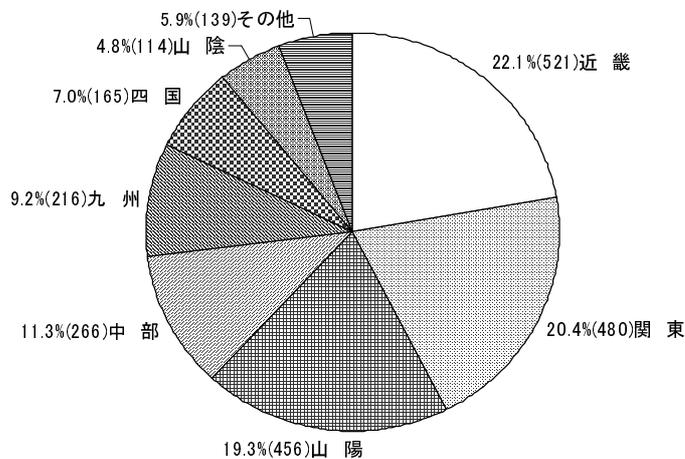


#### ③ 県外観光客の発地別状況

県外観光客を発地別にみると，「近畿地方」521万人（22.1%），「関東地方」480万人（20.4%），「山陽地方」456万人（19.3%），「中部地方」266万人（11.3%），「九州地方」216万人（9.2%），「四国地方」165万人（7.0%），「山陰地方」114万人（4.8%）の順になっている。

図5 発地別県外観光客数の割合

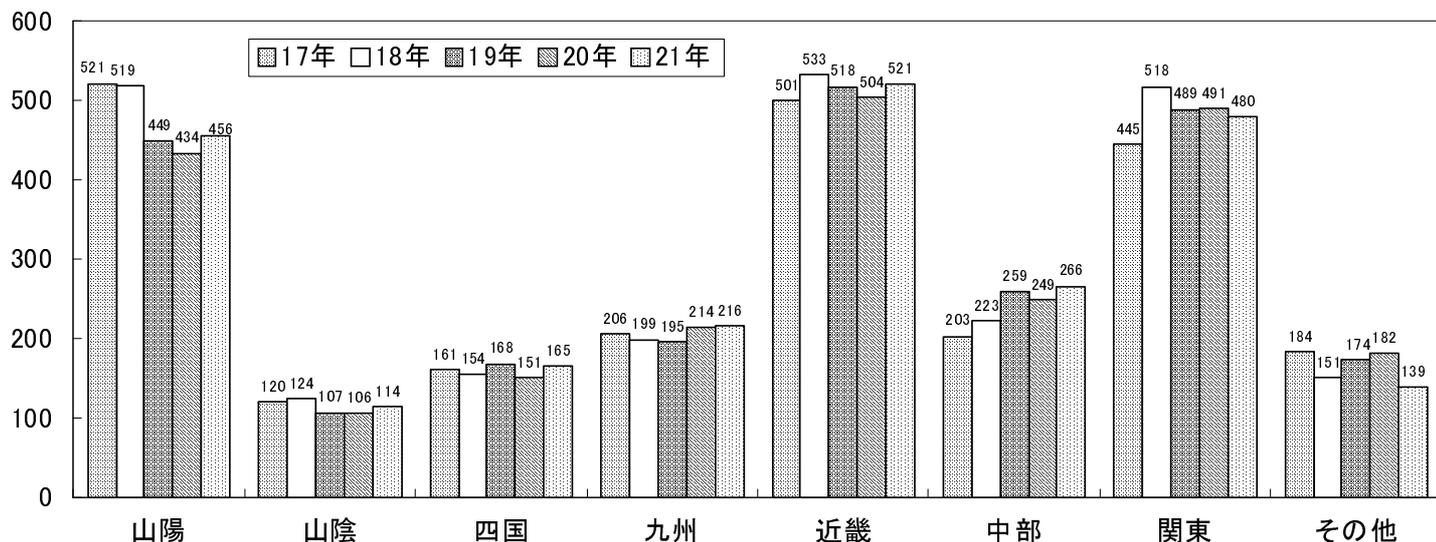
単位：万人



また、前年と比べた場合、「山陽地方」から2.2万人、「近畿地方」「中部地方」から1.7万人、「四国地方」から1.4万人の増加となっている。

図6 発地別県外観光客の状況

単位：万人

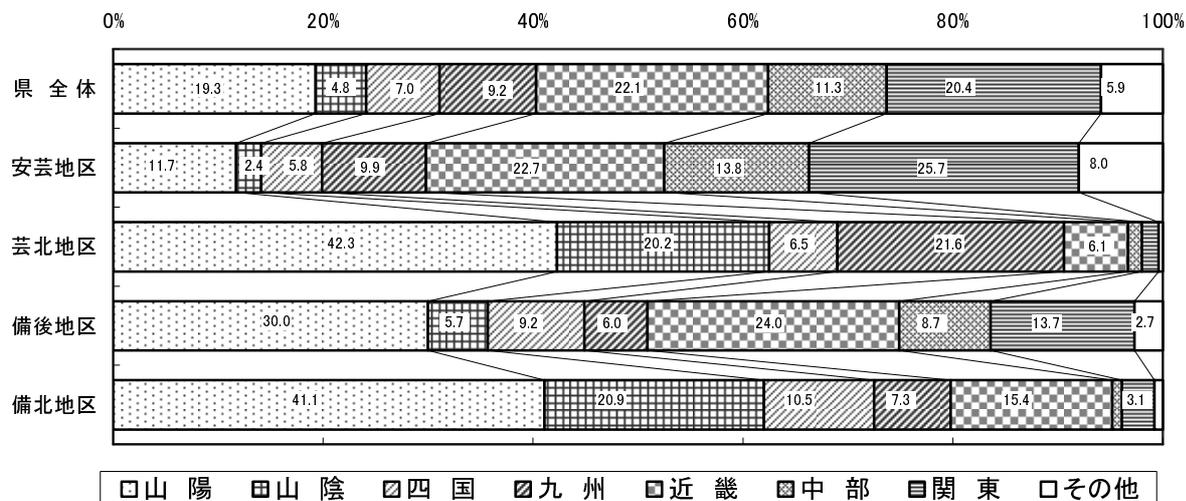


④ 地区別にみる発地別県外観光客の状況

安芸地区は「関東、近畿、中部地方」など大都市圏からの観光客が高い割合を占めている。また、芸北地区は「山陽、九州、山陰地方」から、備後地区は「山陽、近畿、関東地方」から、備北地区は「山陽、山陰、近畿地方」からの観光客が高い割合を占めている。

図7 県内各地区への県外観光客の発地別割合

単位：%

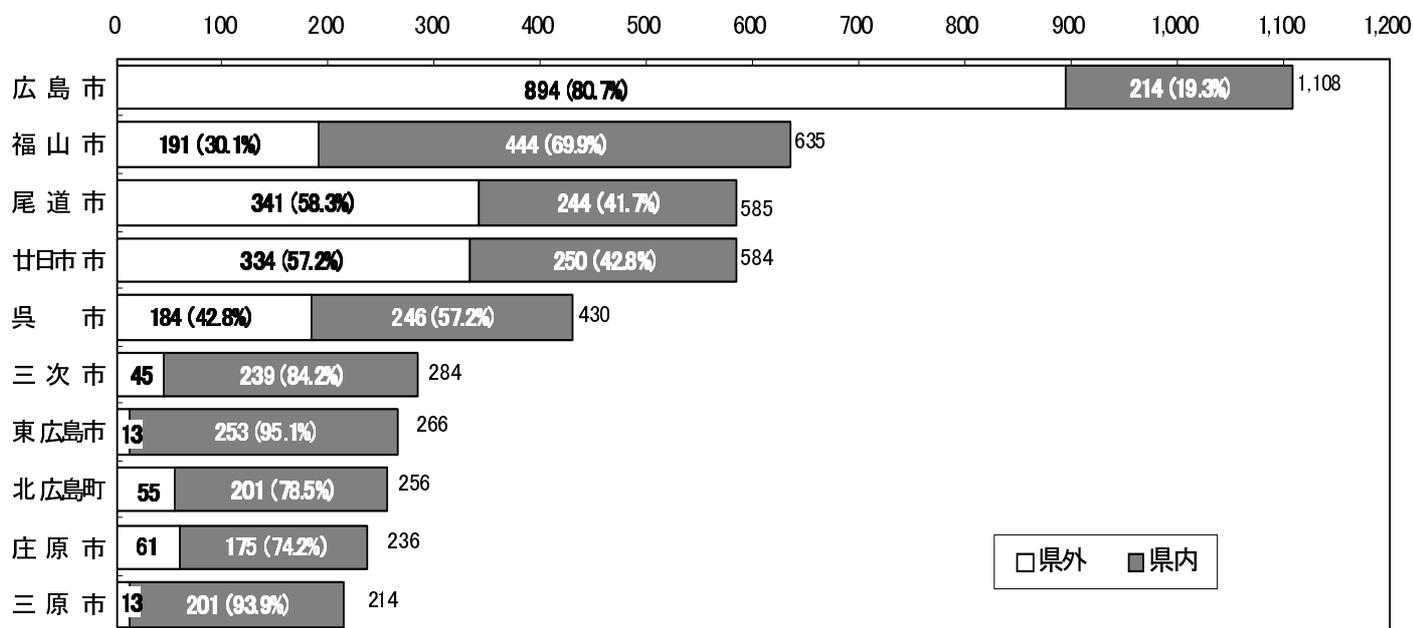


⑤ 市町別にみる県内・県外観光客の状況

観光客数の上位10市のうち、県外客の比率が県全体の平均43.6%を上回っているのは、広島市(80.7%)、尾道市(58.3%)、廿日市市(57.2%)の3市であった。

図8 市町別県内・県外別観光客数(上位10市町)

単位：万人

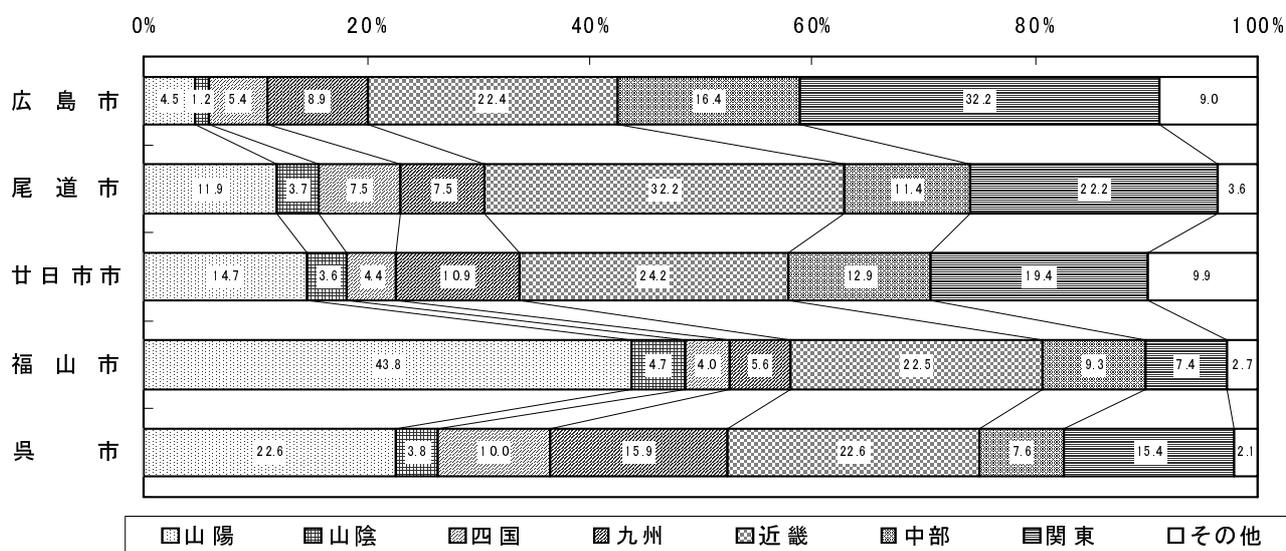


⑥ 市町別にみる県外観光客の発地別状況

県外からの観光客数が多い上位5市を見ると、広島市、尾道市、廿日市市は「関東、近畿地方」の大都市圏から、福山市は「山陽、近畿地方」から、呉市は「山陽、近畿、九州地方」からの観光客が高い割合を占めている。

図9 市町別県外観光客の発地別割合(上位5市町)

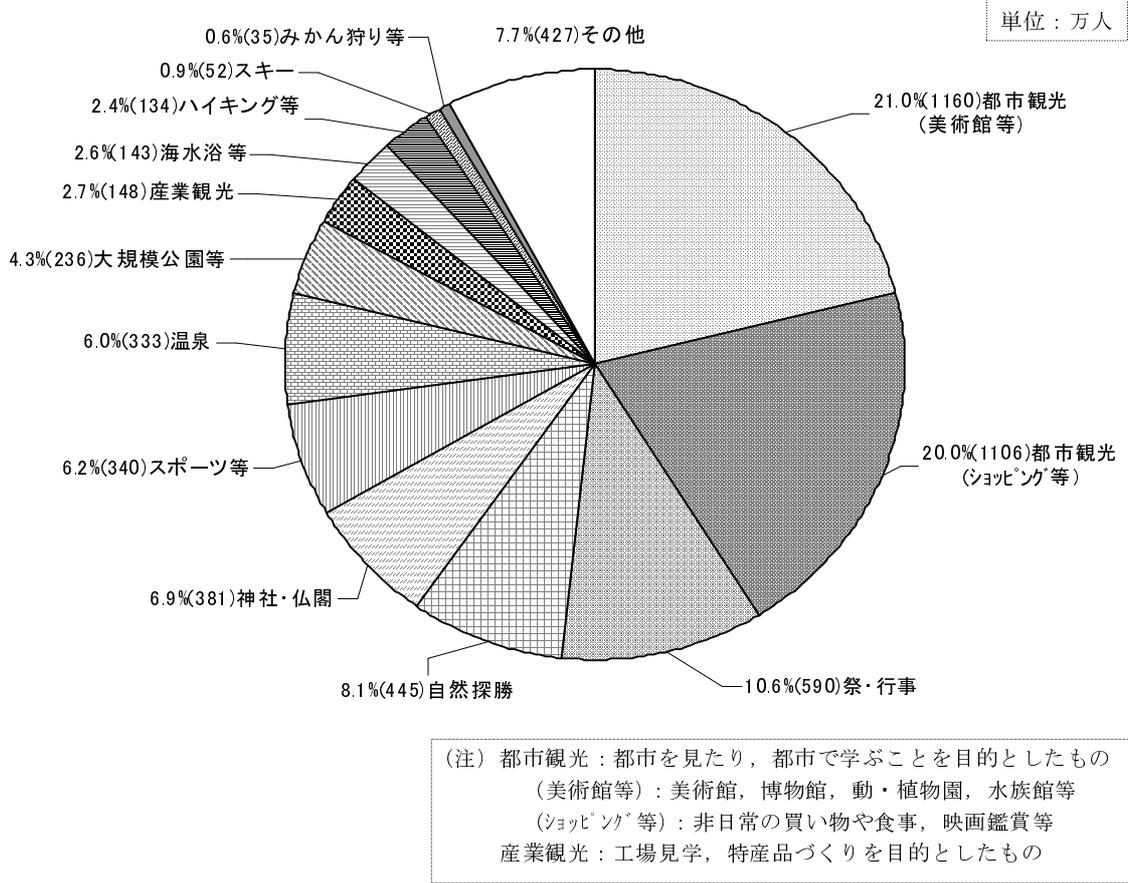
単位：%



(4) 目的別観光客の状況

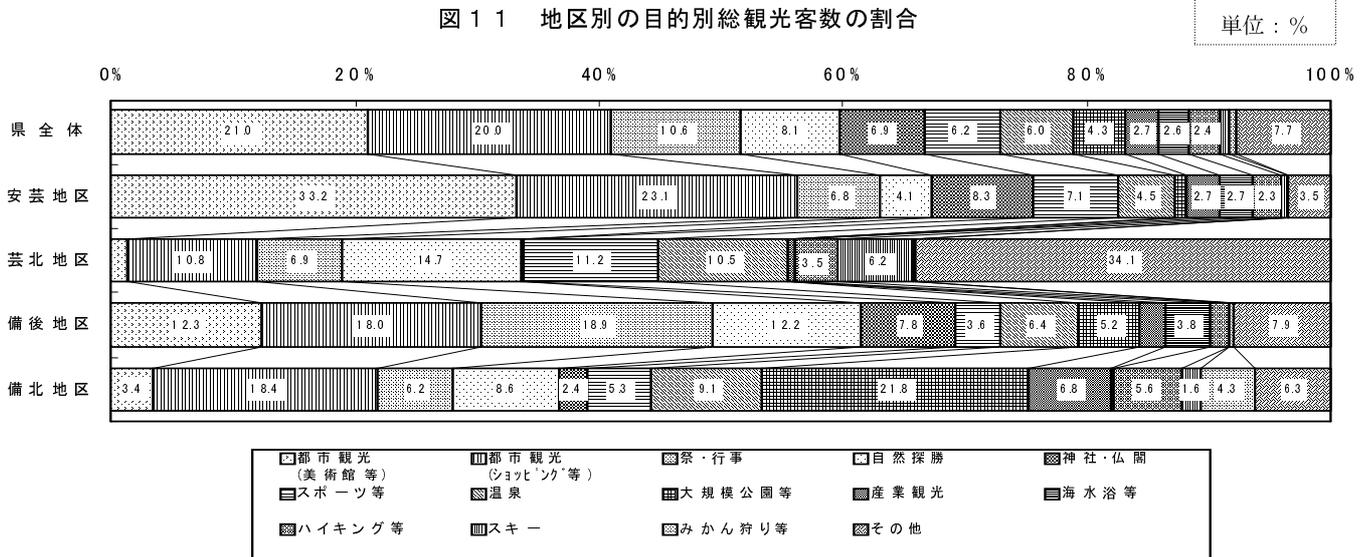
目的別では、「都市観光」が41.0%と最も高く（うち「美術館等」が21.0%、「ショッピング等」が20.0%）、次いで「祭・行事」の10.6%、「自然探勝」の8.1%となっている。

図10 目的別総観光客数の割合



次に，地区別に目的別観光客の割合を見ると，安芸地区では「都市観光」（56.3%）が圧倒的に多く，芸北地区では「自然探勝」（14.7%），備後地区では「都市観光」（30.3%）と「祭・行事」（18.9%），備北地区では「都市観光」（21.8%）と「大規模公園等」（21.8%）が高い割合となっている。

図11 地区別の目的別総観光客数の割合



(5) 旅行形態別観光客の状況

単位：万人，%

① 日帰り客・宿泊客の状況

区分	日帰り客		宿泊客	
	観光客数	構成比	観光客数	構成比
安芸地区	2,277	82.3	489	17.7
芸北地区	454	96.8	15	3.2
備後地区	1,649	92.9	126	7.1
備北地区	477	91.7	43	8.3
広島県全体	4,857	87.8	673	12.2

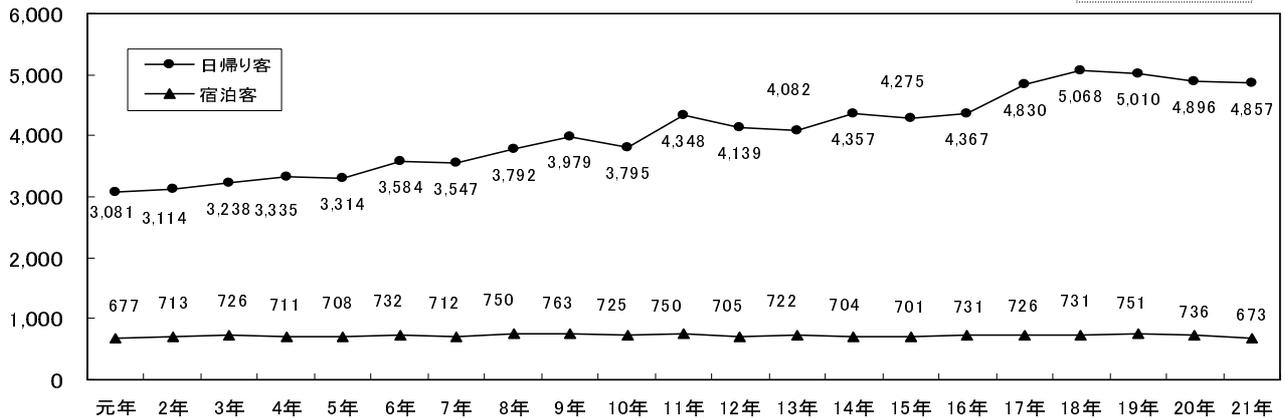
観光客数のうち日帰り客数は4,857万人(87.8%)、宿泊客は673万人(12.2%)となっている。

日帰り客を地区別にみると、安芸地区2,277万人、備後地区1,649万人、備北地区477万人、芸北地区454万人の順になっている。

また、宿泊客は、安芸地区489万人が県全体の7割以上(72.7%)を占めており、次いで備後地区126万人、備北地区43万人、芸北地区15万人の順になっている。

図12 日帰り客・宿泊客数の推移

単位：万人



※ 平成18年調査から、本県の観光客数統計の代表数値を従前の「入込観光客数」から「総観光客数」に変更したため、元年まで遡って推計値に置き換えた。

② 一般客・団体客・修学旅行者<sup>(注)</sup>の状況

単位：万人

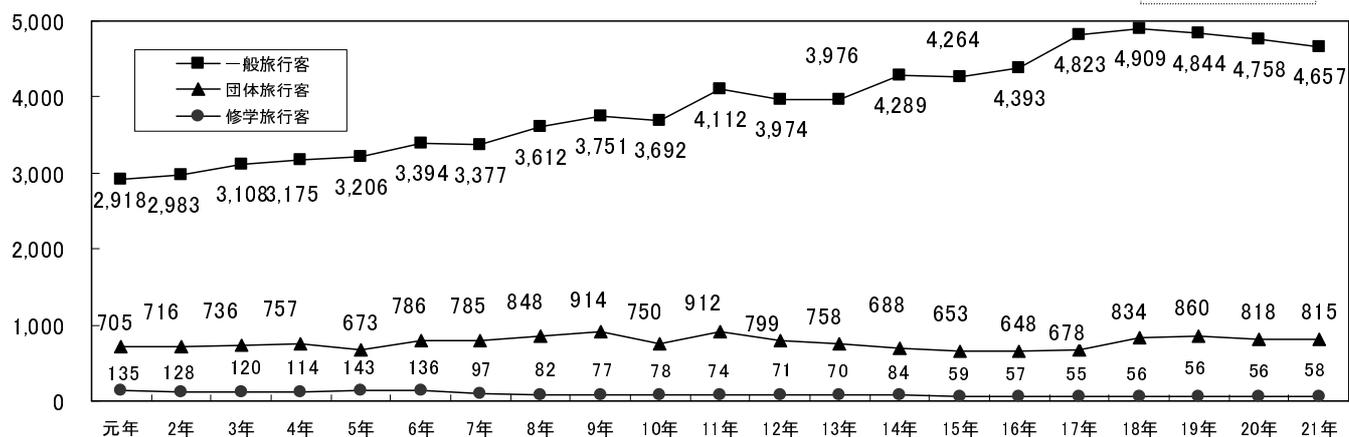
区分	一般客		団体客		修学旅行者	
	観光客数	構成比	観光客数	構成比	観光客数	構成比
安芸地区	2,275	82.2	442	16.0	49	1.8
芸北地区	411	87.6	58	12.4	0	0.0
備後地区	1,535	86.5	232	13.1	8	0.4
備北地区	436	83.8	83	16.0	1	0.2
広島県全体	4,657	84.2	815	14.7	58	1.1

観光客数を一般客、団体客、修学旅行者別にみると、一般客が4,657万人と最も多く全体の84.2%を占めている。なお、団体客は815万人、修学旅行者は58万人となっている。

(注) 団体客：10人以上の団体旅行者、一般客：団体客、修学旅行者以外の旅行者

図 1 3 一般客・団体客・修学旅行客数の推移

単位：万人

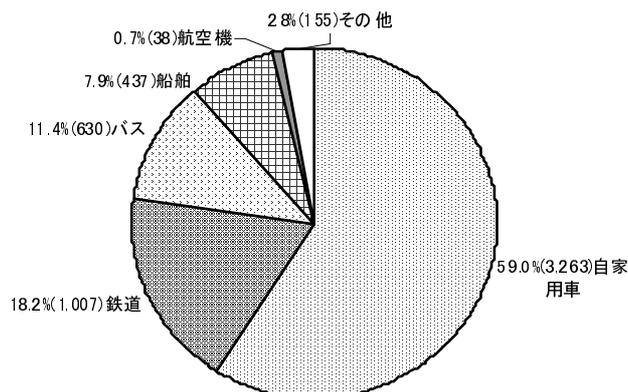


※ 平成 18 年調査から、本県の観光客数統計の代表数値を従前の「入込観光客数」から「総観光客数」に変更したため、元年まで遡って推計値に置き換えた。

(6) 交通機関別観光客の状況

観光客の利用交通機関をみると、自家用車を利用したいわゆる「マイカー客」が、3,263 万人と最も多く、観光客全体の 59.0%を占めている。

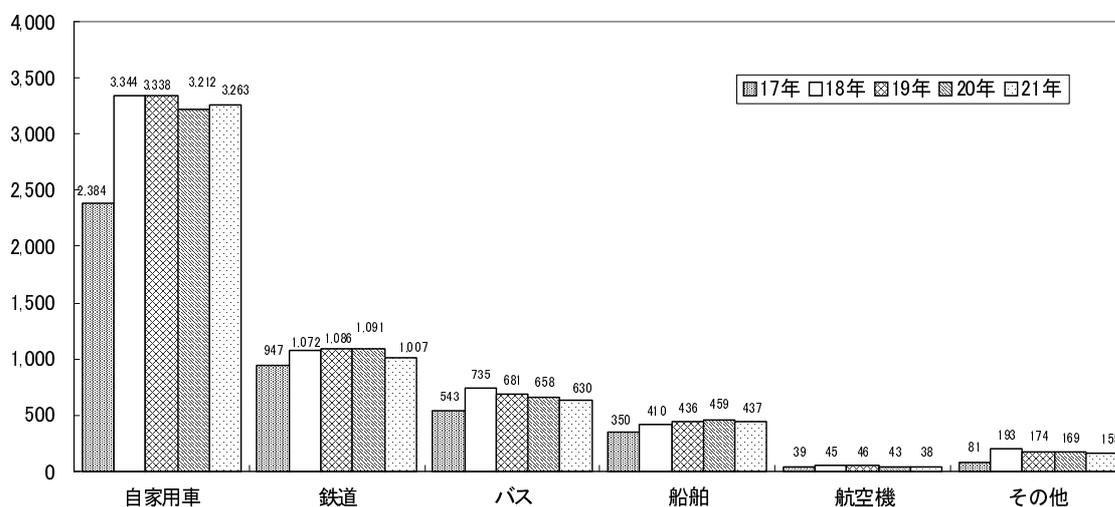
図 1 4 交通機関別総観光客の割合



前年と比べた場合、ガソリン価格の下落と休日の高速道路 ETC 割引の影響で、自家用車利用者が 51 万人増加しているものの、その他の交通機関は減少している。

図 1 5 交通機関別総観光客の状況

単位：万人



(7) 月別・季節別観光客の状況

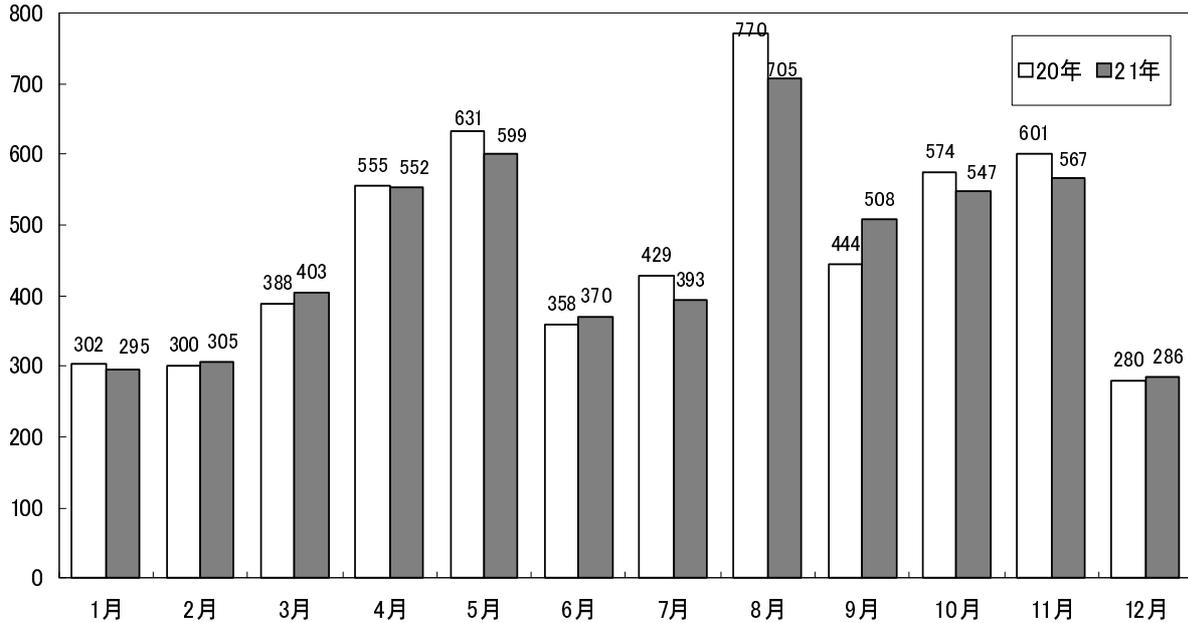
① 月別総観光客数の状況

平成21年は9月に大型連休があったため、前年に比べ64万人増加している。

最も観光客が多かったのは、8月の705万人、次いで5月の599万人、11月の567万人、4月の552万人、10月の547万人となっている。

図16 月別総観光客数の状況

単位：万人

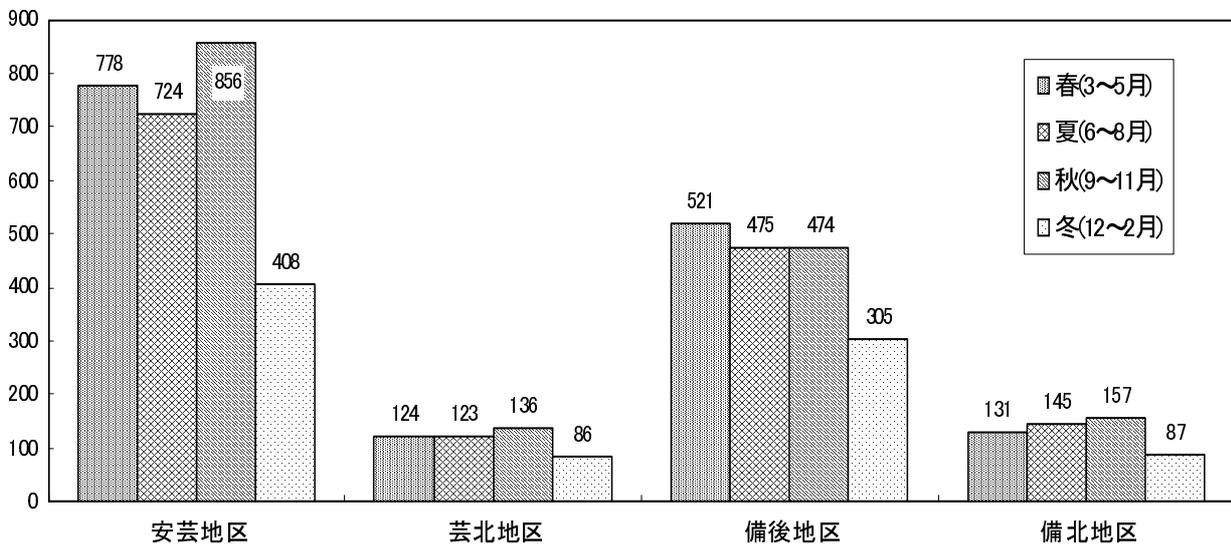


② 地区別・季節別総観光客数の状況

季節別に見ると、安芸地区、芸北地区、備北地区においては、秋に観光客が最も多くなっている。また、備後地区においては春に観光客が多くなっている。

図17 地区別・季節別総観光客数

単位：万人



## 2 外国人観光客の状況

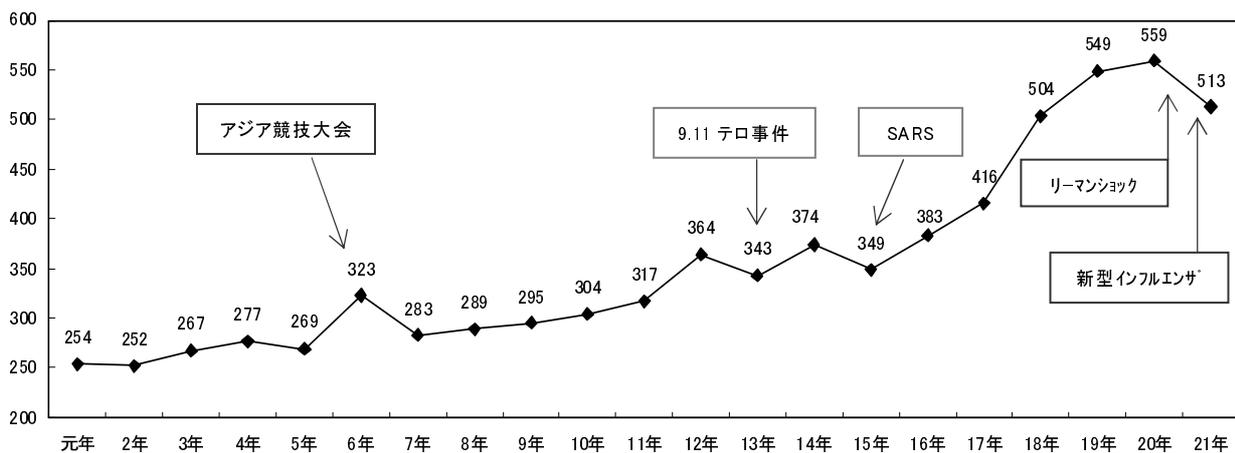
単位：千人，%

区分	平成21年	平成20年	対前年増減	対前年比
外国人観光客数	513	559	▲46	▲8.2

平成21年に本県を訪れた外国人観光客は513千人となっており，前年と比べて46千人（8.2%）減少している。

図18 外国人観光客数の推移

単位：千人

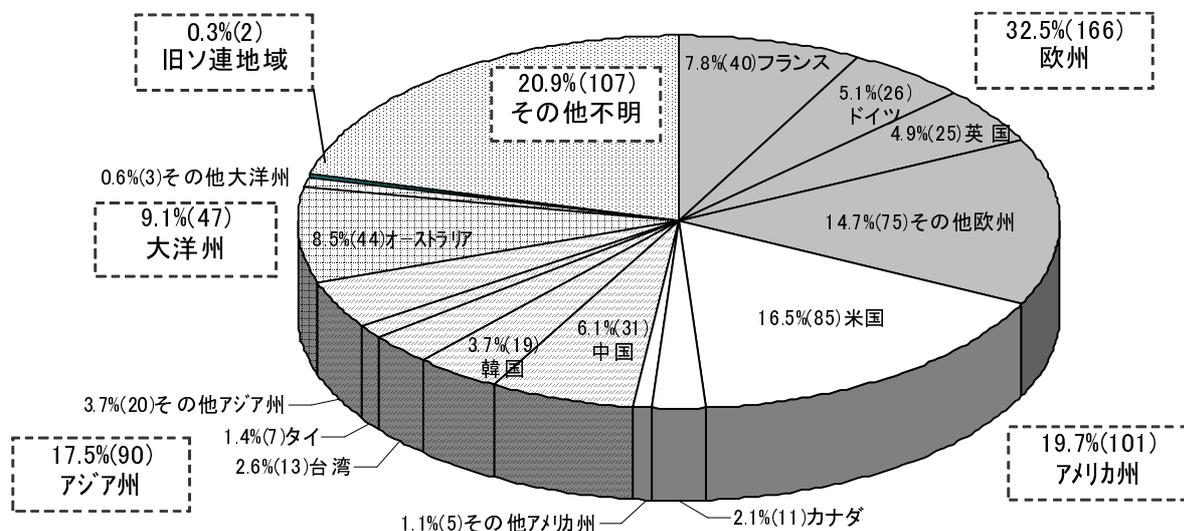


次に，地域別に外国人観光客の割合を見ると，欧州からの観光客が全体の32.5%を占めて最も高く，次いでアメリカ州が19.7%，アジア州が17.5%となっている。

なお，国籍別では米国が第1位（16.5%），第2位がオーストラリア（8.5%），第3位がフランス（7.8%）の順となっている。

図19 国籍・地域別外国人観光客の割合

単位：千人



### 3 観光客数及び観光消費額の状況

#### (1) 観光客数の推移

平成21年の総観光客数は5,530万人となり、そのうち入込観光客<sup>(注)</sup>は、前年に比べて111万人(▲2.6%)減少しているが、県外観光客は26万人(1.1%)増加している。

また、地元(市町内)観光客は1,424万人で、前年に比べて9万人(0.6%)増加し、総観光客数に占める割合は25.8%となっている。

(注) 入込観光客：各市町を当該市町の区域外から訪れた観光客

単位：万人，%

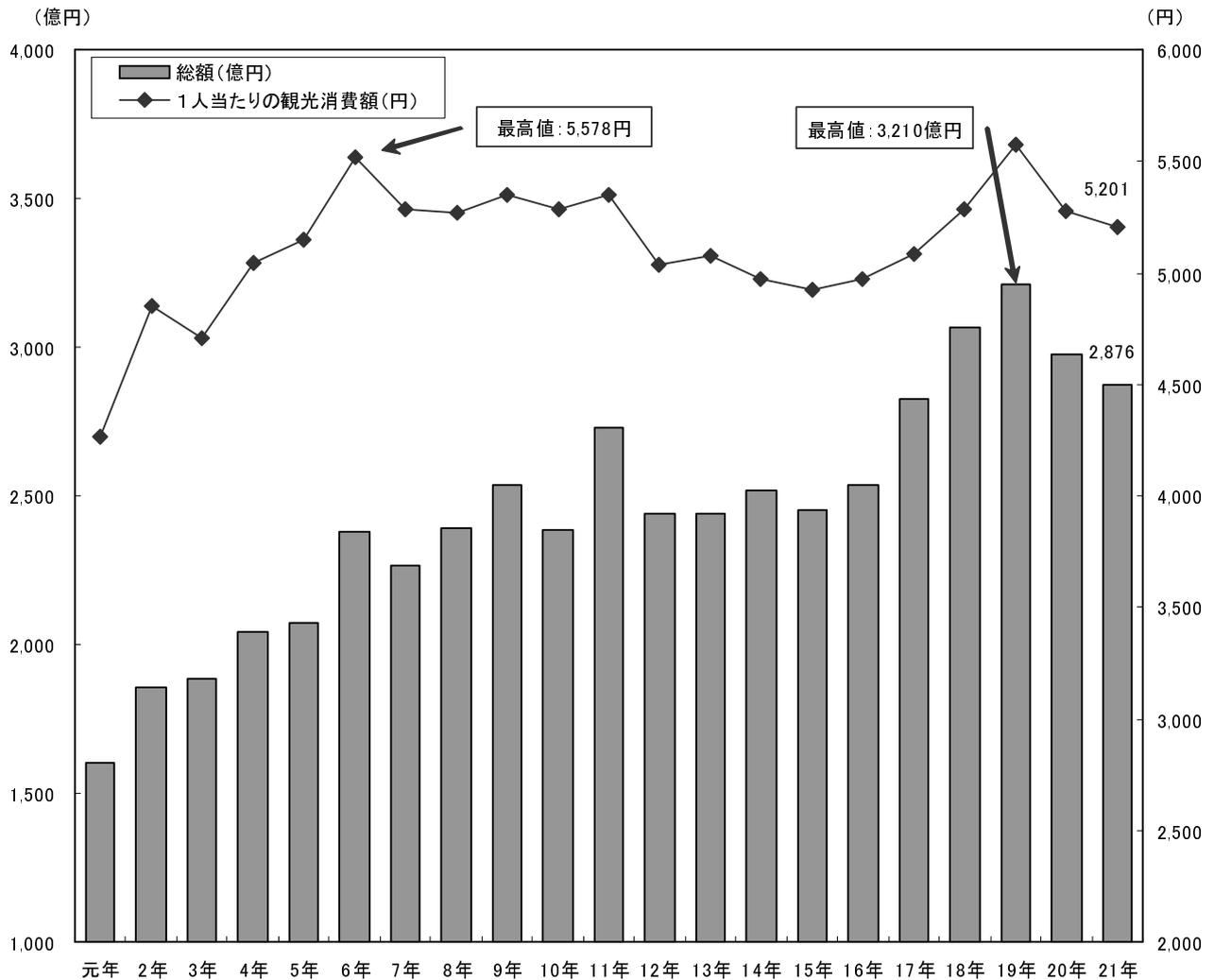
区分	年次	県内観光客			県外観光客 (C)	入込観光客 (B) + (C)	総観光客数 (A)+(B)+(C)
		地元観光客(A)	市町外観光客(B)	計(A)+(B)			
実 数	元年	656	1,355	2,011	1,747	3,102	3,758
	2年	667	1,387	2,054	1,774	3,161	3,828
	3年	696	1,437	2,133	1,831	3,268	3,964
	4年	711	1,490	2,201	1,845	3,335	4,046
	5年	749	1,456	2,205	1,817	3,273	4,022
	6年	817	1,540	2,357	1,959	3,499	4,316
	7年	836	1,553	2,389	1,870	3,423	4,259
	8年	893	1,651	2,544	1,999	3,650	4,543
	9年	900	1,746	2,646	2,096	3,842	4,742
	10年	898	1,678	2,576	1,944	3,622	4,520
	11年	960	1,788	2,748	2,350	4,138	5,098
	12年	984	1,753	2,737	2,107	3,860	4,844
	13年	1,042	1,747	2,789	2,014	3,761	4,803
	14年	1,126	1,887	3,013	2,048	3,935	5,061
	15年	1,081	1,891	2,972	2,004	3,895	4,976
	16年	1,162	1,885	3,047	2,051	3,936	5,098
	17年	1,212	2,003	3,215	2,341	4,344	5,556
	18年	1,433	1,945	3,378	2,421	4,366	5,799
	19年	1,434	1,968	3,402	2,359	4,327	5,761
	20年	1,415	1,886	3,301	2,331	4,217	5,632
	21年	1,424	1,749	3,173	2,357	4,106	5,530
構 成 比	元年	17.5 (32.6)	36.1 (67.4)	53.5 (100)	46.5	82.5	100
	2年	17.4 (32.5)	36.2 (67.5)	53.7 (100)	46.3	82.6	100
	3年	17.6 (32.6)	36.3 (67.4)	53.8 (100)	46.2	82.4	100
	4年	17.6 (32.3)	36.8 (67.7)	54.4 (100)	45.6	82.4	100
	5年	18.6 (34.0)	36.2 (66.0)	54.8 (100)	45.2	81.4	100
	6年	18.9 (34.7)	35.7 (65.3)	54.6 (100)	45.4	81.1	100
	7年	19.6 (35.0)	36.5 (65.0)	56.1 (100)	43.9	80.4	100
	8年	19.7 (35.1)	36.3 (64.9)	56.0 (100)	44.0	80.3	100
	9年	19.0 (34.0)	36.8 (66.0)	55.8 (100)	44.2	81.0	100
	10年	19.9 (34.9)	37.1 (65.1)	57.0 (100)	43.0	80.1	100
	11年	18.8 (34.9)	35.1 (65.1)	53.9 (100)	46.1	81.2	100
	12年	20.3 (36.0)	36.2 (64.0)	56.5 (100)	43.5	79.7	100
	13年	21.7 (37.4)	36.4 (62.6)	58.1 (100)	41.9	78.3	100
	14年	22.2 (37.4)	37.3 (62.6)	59.5 (100)	40.5	77.8	100
	15年	21.7 (36.4)	38.0 (63.6)	59.7 (100)	40.3	78.3	100
	16年	22.8 (38.1)	37.0 (61.9)	59.8 (100)	40.2	77.2	100
	17年	21.8 (37.7)	36.1 (62.3)	57.9 (100)	42.1	78.2	100
	18年	24.7 (42.4)	33.5 (57.6)	58.3 (100)	41.7	75.3	100
	19年	24.9 (42.2)	34.2 (57.8)	59.1 (100)	40.9	75.1	100
	20年	25.1 (42.9)	33.5 (57.1)	58.6 (100)	41.4	74.9	100
	21年	25.8 (44.9)	31.6 (55.1)	57.4 (100)	42.6	74.2	100

## (2) 観光消費額の状況

平成21年に、観光客が本県において交通費、宿泊料、みやげ品代、飲食代、入場料などに消費した観光消費額の総額は2,876億円で、前年に比べて98億円（▲3.3%）の減少となり、前年を下回った。

また、観光消費額の総額を総観光客数で除した1人当たりの観光消費額<sup>(注)</sup>は、前年より79円（▲1.5%）減少し、5,201円となっている。

図20 観光消費額の推移



(注) 1人当たり観光消費額＝総観光消費額／総観光客数

なお、観光消費額については、各市町が推計したものを県でとりまとめたものである。